

添 付 資 料

1. ワークショップ・研修関連資料

1-1(1) ガーナ・カカオボード訪問概要

ガーナ・カカオボード品質管理部門（QCC）への訪問の概要

日 時：2022 年 11 月 21 日（月）10:00～12:00

場 所：ガーナ・カカオボード品質管理部門（QCC）本部

参加者：ガーナ・カカオボード品質管理部門（QCC）：Dr. Paul Agyeman（QCC Research Manager）、他

農林水産省食品製造課：渡邊課長、二井課長補佐

日本チョコレート・ココア協会：三谷専務理事

中央開発株式会社海外技術部：山口部長

伊藤忠商事株式会社アクラ事務所：梶川所長、大野

カカオ・ゴマ課：緒方トレーダー

概 要：

QCC の組織の目的及び業務内容について、説明、意見交換の後、農薬等分析に係る前処理及び機器分析室を視察した。具体的内容は以下のとおり、

（ガーナ）QCC ラボには、4つの部門があり、職員は 64 名いる。日本向けの残留農薬検査の基準を満たしているか検査できる体制を整えている。ポジティブリストの導入後の 2012 年以降、残留農薬の基準が厳しくなり、日本向けの船積前に残留農薬の検査を行うようになった。当初 12 種類の農薬の検査を行っていた。

QCC では、カカオ産地への研修やモニタリングを行ってきた結果、現在は 2 種類の農薬の検査まで減ってきている。昨年度は違反件数がゼロであったことは、QCC にとっても喜ばしいことであった。

このラボで検査が可能なのは、残留農薬検査の他、マイコトキシン（カビ毒）、脂肪分、虫の異物混入も検査可能である。ラボは ISO の認証を受けており、カビ、細菌の検査設備も整えられている。カドミウムや水銀の重金属の検査機器の導入も進められている。また、カカオ豆の香味成分の分析機器の導入も行う。

地域によって異なるが、日本向けであれば残留農薬、欧州向けであればマイコトキシン、モシュモア（MOSH/MOAH¹）、重金属といったに分野に新しく人的資源を投入している。

- ・カカオ豆を入れるジュート袋の調達についても、カカオボードが行っている。
- ・コーデックスなど、新たな規格が導入されたときに、既存の検査機器やノウハウで対応できない場合もあり、輸入国からのサポートは不可欠である。日本からは、分析技術専門家の派遣により技術研修を行うなどサポートを受けている。

（ガーナ） 日本にとって、サステイナブルとは何を想定しているのか。

¹ ミネラルオイル飽和炭化水素類（MOSH）やミネラルオイル芳香族炭化水素類（MOAH）

(日 本) 今回は、持続可能性に配慮した輸入カカオ豆調達という目的で来ている。日本にとって、サステナビリティとは、トレサビリティの向上、生産の増加、農薬の適正使用。

(ガーナ) 日本は年間5万トンのカカオ豆を輸入していたが、年々減少してきているが、輸入量は増加する見通しか。

(日 本) 一次加工したカカオの輸入が増加しているため、輸入量が減少している。他方、大手メーカーはカカオ豆から調達（摩砕）することで製品の差別化を図っており、増加する可能性はある。

1-2(1) ガーナ食糧農業省 訪問概要

ガーナ食糧農業省への表敬の概要

日 時：11月21日 12:25～

場 所：ガーナ食糧農業省

参加者：日 本（在ガーナ国日本大使館） 園田一等書記官、勝村一等書記官

（農林水産省）渡邊食品製造課長、二井食品製造課課長補佐

（日本チョコレート・ココア協会）三谷専務理事

（中央開発（株））海外技術部 山口部長

（伊藤忠商事（株））カカオ・ゴマ課 緒方トレーダー

アクラ事務所 梶川所長、大野所員

ガーナ（食糧農業省）シアメー農業普及局長、担当課長（Solomon Gyan Ansah 作

物サービス局長補佐、Jonas Asare Berchie 畜産局長補佐、

Josephine Quagraine 政策計画監視評価局長補佐、

Emmanuel K. Morti 食品基準局（FSA）局長補佐）

会談概要：

渡邊課長より、ガーナへの今回の出張は、ガーナのカカオ豆についての持続可能なカカオ豆生産のプロジェクトを本年度から始めるにあたって、その事業の目的、来年度も継続して予算要求している旨を伝えた。

その後の先方とのやり取りは以下のとおり

（ガーナ）；このプロジェクトの実施は、ガーナにとって大変ありがたいものである。特に品質面が重要で日本向けのカカオ豆にとっても有意義である。また、農薬の適正使用は、残留農薬などの検疫上も重要である。そのためにもココアボードとよく連携して進める必要がある。

（ガーナ） 自分は畜産を担当しているが、カカオ豆を加工する際に残る殻や皮などの不要物を畜産飼料などに有効利用できる方法について、知見があればお教え願いたい。

（日 本） 再利用している企業や検討している企業は、数社ある。その際には協力をお願いしたい。

（ガーナ） ガーナのカカオ豆はチョコレート以外には、何に使われるか。

（日 本） 殻は砕いて固めて家具の部品などや食器などにも加工することで、商用段階にゆけるかどうかを研究中の企業がいる。

また、量は少ないものの油分（ココアバター）は化粧品用途にも使用されている。

- (ガーナ) 生産性の向上は具体的には、どのようなことを考えているのか。
- (日 本) 農薬を適正に使用することでコストを抑えることができ、ひいては生産性が上がるなどではないか。これらの課題については、ワークショップで明らかになることと考えている。また、技術講習会に参加する農家にも確認してみたい。これらの課題を解決するために来年度も予算を要求している。
- (ガーナ) 今回の技術講習会の場所であるウェスタン州以外にもカカオ産地は多くあることから、カカオボードとの連携によりガーナ全体に大きく広がるように事業を進めてもらいたい。農家も持続可能性とトレサビリティについては、前向きに取り組む声を聞いている。
- (日 本) 従来までは民間での取り組みであったが、今回、食糧農業省と農水省が交流できたことは持続可能性に配慮した輸入カカオ豆調達の実現において非常に有意義と思料する。
- (ガーナ) 児童労働は政府の課題と認識しており、ILO に定めるワースト（最悪形態の児童労働（the worst forms of child labour））²より解決していきたい。また、食品安全（農薬）についても重要で農家もその点は理解している。本プロジェクトを通じてプラスになる成功となるように願っている。
- (ガーナ) 日本における食品安全上のミニマムスタンダードは、何か。
- (日 本) ガーナのカカオ豆は、品質的には農薬以外は満たしているものと考えている。日本の基準は一部の項目で他国より10倍厳しい基準値が定められている。
- (日 本) ウクライナ情勢などによる物価高騰に対して、貴国ではどのように対処しているか。
- (ガーナ) 米の輸入価格が高くなっているが、国内生産を伸ばすように推奨している。JICA の協力も得ながら4つのプロジェクトを進めており、灌漑システムを導入して、収量の増加を指導している。
- 肥料は、輸入価格が高騰している。国内生産を進めていく予定である。ガーナでは天然ガスが産出されるので、それを活用しようとしているが、資金がなく進んでいない状況にある。肥料高騰対策としては有機肥料を国内で推奨しているところ。

² 1999 年、ILO（国際労働機関）は「最悪形態の児童労働」条約（Worst Forms of Child Labour Convention）において、子どもの紛争への強制的な参加を含む労働や子どもの健康、安全、道徳を害するおそれのある労働を「最悪形態の児童労働（the worst forms of child labour）」と定義

1-3(1) 現地関係者とのワークショップ 概要

ワークショップの概要

日 時：11月22日 9:50～13:05

場 所：ガーナ国アクラ市 ココナッツ グローブ リージェンシー ホテル

参加者：ガーナ（ガーナココアボード）アイドー総裁、アモアー調査部長ほか

（QCC 品質管理機構）ポール研究副部長

（食糧農業省）Solomon Ansah-Gyan 収穫サービス部長、Lowbi George 調

達・サプライチェーン担当課長

（WCF 世界カカオ財団）Betty Simawua Annan カントリー・ディレクター

日 本（在ガーナ国日本大使館） 勝村一等書記官

（農林水産省）渡邊食品製造課長、二井食品製造課課長補佐

（日本チョコレート・ココア協会）三谷専務理事

（中央開発（株））海外技術部 山口部長

（伊藤忠商事（株））カカオ・ゴマ課 緒方トレーダー

アクラ事務所 梶川所長、大野所員

概 要：

渡邊課長より、ガーナのカカオ豆についての持続可能なカカオ豆の生産を支援するための本事業の目的について、冒頭あいさつとして発言。

ガーナ側からガーナココアボード（GCB）のアイドー総裁より、あいさつについて以下のとおり、

私が初めてワークショップに参加したのは1998年で、東京都立大学で行いました。その時はクマシ大の教授として参加しました。国際食糧政策研究所（IFPRI）をベースに国際共同研究プロジェクトを実施した。大塚啓二郎教授³は、カカオの話をされました。

今日のテーマは、サステナブルで1998年のワークショップと状況は変わっていない。

ガーナとしては、品質とサステナブルが一番の問題ではない。カカオは、ガーナにとって大事な品目で食品安全とサステナブルも大事である。西アフリカ諸国では、間違った認識もされている。先週、欧州で同じくサステナブルココアの研究で、栽培現場で調査した。

今回、日本からわざわざガーナに来てくれたことを嬉しく思う。今回のプレゼンでは、児童労働、トレサビリティ、森林破壊、農家の収入向上のほか食品安全が重要な項目である。

実際にカカオ農園にも行く前に我々の取組みや業界全体の話をはじめに聞くことは、とても重要なことだと考える。ガーナにおけるカカオの付加価値を高めるための業界として

³ <http://www.arsvi.com/i/2ghn2007.htm#19981026>

取組を知ってもらった上で現場を見てもらうことが大切である。

ワークショップでマクロ的に見た上で、現場を目で見てもらえれば、現状を理解することで有意義なプロジェクトとなることものと考え、本事業の成功を願っています。

(日 本) 伊藤忠商事(株) 梶川アクラ事務所長より、日本のチョコレート産業のカカオ豆調達の現状やサステナブル調達に係る企業の取り組みについて、資料に基づき説明。

(ガーナ) GCB のアイドール・総裁から、ガーナにおけるカカオ生産やトレサビリティや農業の管理、サステナブル・カカオ豆、食品安全などについて資料に基づき説明。具体的な発言内容は以下のとおり

- ・ガーナ経済を支える重要な柱がカカオである。
- ・カカオ農家にいうと 80 万人の農家、全体の農家の数は 120 万を超える。
- ・カカオの集荷や品質管理、ロジスティックなどサプライチェーンに関わる人もそれに見合う同数程度の人数となる。
- ・GCB が関わっている環境を整えて、しっかりカカオの産業全体が発展していくことを重要視している。
- ・カカオ農家の取組を進めるためには、労働に見合う対価を支払うことが大切である。サステナブルを確立するには、妥協も必要である。サステナブルの取組には、その環境を整えることが重要で、労働力に対する対価の確保が重要である。児童労働など農家の人権を保護することも大切である。そのため、ガーナのカカオは非常に高い品質基準を求められる。社会的なインフラ支援が必要で、GCB でも取り組んでいる。
- ・ガーナと日本の考えは、一致しており同じ方向に向かっている。
- ・カカオに係る両国の関係は良好で、日本の食品企業による QCC のトレーニング（指導）が好例である。
- ・GCB とタッグを組んで、サステナブルのプログラムと一緒にやっている日本企業もある。
- ・先ほど民間の取組について説明されたので改めて言わないが、JICA の取組も重要である。JICA はアフリカ開発銀行と協力して総額 6 億米ドルの協調融資⁴をされたこともあった。目的は一緒に、トレサビリティ、森林破壊の撲滅、貧困をなくして児童労働をなくすこと。
- ・2017 年までは日本への輸出は増えていたが、現在は減少傾向となっている。コロナの影響とは思いますが、ガーナの日本におけるシェアは 80% から 75% に減ってきている。
- ・ガーナ産 100% ということは他国より高い。他国のカカオの品質はガーナより落ちることを伝えたい。
- ・日本が多く輸入しているエクアドルのカカオには、カドミウムが含まれており、欧州などから指摘されているところ。ガーナはエクアドルに比べてカドミウムフリーが保証できるので、ガーナの品質の優位性は維持されている。

⁴ https://www.jica.go.jp/press/2019/20200214_11.html

- ・本日、日本の農水省から来て事業を進めてくれることは嬉しい。日本は、もっと直接ガーナから買っていただきたいと伝えたい。
- ・ガーナのカカオは他国に比べ高いが、プレミアムは決して高い訳ではなく、品質に見合うものであるということを理解してもらいたい。品質面は他国が追い付けないほどとなることを GCB は目指している。
- ・GCB にとって、人権保護や森林破壊への対応は避けられないことを認識している。
- ・GCB はこれら課題を解決するために、ステークホルダーと協力し、森林破壊監視システム（National Deforestation Monitoring System）というシステムを策定した。
- ・GCB も農家にカカオ以外の農作物の栽培を推進している。
- ・ガーナでは、カカオは陰性植物なので森林にカカオを植えて、日陰が維持できるようにしている。そのためすでにカカオ栽培は、アグロフォレストリーの定義に則したものと考えている。農家にもしっかりとアプローチしていて、社会的なサステナブルの環境、サステナブル活動を実践している。
- ・ガーナはカカオの生産性の向上、少ない土地での効率的生産の取組に力を入れている。例えばベッドを横ではなく縦にするようなものである。
- ・また、ガーナは、世界銀行の森林炭素パートナーシップ基金（Ghana Cocoa Forest REDD+ Programme (GCFRP)）とともに CO₂ 排出量削減に力を入れている。
- ・GCB の再生農園プログラム（Cocoa Rehabilitation and Intensification Programme (CORIP)）を進めている。
- ・GCB はガーナ森林投資プログラム（FIP）をやっている。
- ・森林保護地域では、カカオを栽培しないように指導している。
- ・カカオ腫脹性シュートウイルス病（CSSVD）という病気にかからない限り、100 年、200 年も育つ木です。
- ・先ほどの日本のプレゼンで ESG の話があったが、私はこれに E（経済）が抜けていると考えている（ESGE）。経済も持続させないと国が成り立たない。ESG には、環境保護や児童労働が含まれているが、農家の生計向上が抜けていると考えている。児童労働や森林破壊が起こるのは生産性向上が欠けていることが原因である。サステナブルの前に農家の収入を上げることがまず絶対に外せない。
- ・雑草に対して除草剤を使うと成分の 2, 4-D が残留する。これを使わないとした場合、雑草を刈らなければいけない。その分、労働力が必要となり人件費が必要となる。
- ・GCB としては、サプライチェーンのはじめは農家であり、農家の収入向上が重要である。
- ・ガーナにおいては、FOB の 70% が農家の手取りとなるようにしている。例として、LBC（公認買付業者）が秤をごまかして調達していたのを、対策として公平性を期するために電子秤を導入した。
- ・2017 年には単収が 450kg/ha と低かったので、生産性向上プログラム（PEPs）を入れて GCB では力を入れている。近年では 600 kg/ha と単収も増えており、多い場合 1000 kg と

いう農家もある。

・先ほど日本側からのプレゼンにあった「安定的な供給」については懸念はいらない。1つのカカオの樹からカカオの実が30ポットから100~200ポットまで生産性が上がっている。これはGCBの取組の成果である。・気候変動に対応できるように農家に生産量を増加するようにGCBでもしている。

・これだけのことをガーナでやっているが、カカオ豆の価格は下がっている。(2016年9月から30%低下)。

・過去5年間カカオが安くなっているが、農家への支払い額は維持しており、その分はGCBで受けてしのいでいる。

・ご存じのとおり、農家の所得を向上させるためにコートジボワールと共同でカカオ価格に400ドル追加する制度を導入した経緯がある。巨額の資金が取引されている中で、2%しかガーナに還元されていないため、流動性を確保するため制度を作った。

・今回、日本から関係者には、LID (Living Income Differential) は農家の収入源の確保、資金の流動性を保つために重要なもので、また、GCBのカカオ豆品質向上の取組策がプレミアムとして上乘せされていることをよく理解してもらいたい。

・このLIDとカントリー・ディファレンシャルは、大手のバイヤーは重要性を理解しておらず、この2点が確保されないと農家の収入が向上せず、結果的に児童労働や森林破壊に繋がる。

・児童労働でジェンダー・エンパワーメントの確立については、GCBで専用部署を設けている。

・ガーナにおいては、個別企業が様々なプラットフォームを独自で運用しており、GCBでは一つのプラットフォームに統合するために、ガーナココアモニターを作ることとしており、日本も協力をしていただきたい。(EUも関与するという。)

・サステナブルのモニタリング調査は、今は民間や別のプラットフォームでも実施しているが、統合したものを作ろうとしている。また、GCBでは、サステナブルの部署を新たに設けて独自で調査している。

・食品安全は他国より確保している。日本企業からQCCラボに支援していただいたことについては感謝している。

・GCB傘下のCRIG (Cocoa Research Institute of Ghana)という研究組織で農薬の研究を行っている。農家への農薬の使用方法はCHED (The Cocoa Health and Extension Division)が指導している。

・トレサビリティについては、農家がカカオを持ち込む倉庫(デポ)から港の倉庫まで確保されている。農家から倉庫までのトレサビリティは、新たなCMS (ココアマネジメントシステム)でやろうとしている。

・新システムは、家族構成まで(年齢も)登録するもので、カカオ農家の位置情報も登録されているので東京からでも確認することが可能である。

・CMS のシステムはガーナ独自のものでトレサビリティだけでなく、児童労働や森林破壊の関与もわかるものである。家族構成がわかっているので、児童労働した場合は、警告が可能である。

・今回の日本側の懸念・要求は、すべてにすでに解決するための対策として講じようとしている。本システムは未導入であるが、農家の情報収集は終わっており、データを入れ、着々と導入に向けて進めているところ。

・このシステムは、残留農薬にも有効であり、輸出前の段階で 2, 4-D で基準超過になれば、どこの農家かがわかる。

・このシステムの導入により、森林保護地域で作られたカカオは売れなくなる。すべての問題が解決できる。

・大きな課題のひとつとしては、カカオの樹の病気である。カカオ腫脹性シュートウイルス病 (CSSVD) はウェスタンノース地域であり、今は罹患した場合には木を切るしかない。

・もう一つの課題は、カカオ農家の高齢化である。カカオ農家の平均年齢は 55 歳であり、若者のカカオ農家への就農が減っている。カカオ栽培を魅力的な仕事をする必要がある。

・カカオの農家がより換金性の高いゴムやカシューナッツに転作したり、カカオ栽培地域と重なっている、金の採掘用にカカオ農園を売り払い、違法採掘されたりと政府としても問題視している。

・カカオ豆価格として、LID400 ドル/トン。カンントリー・ディファレンシャルを受け入れないバイヤーがある。これが受入れられないと、最低保証価格を割り込み、安くなってしまうと先に述べたようにカカオ農家は転作や違法採掘へと向かうこととなる。いずれカカオ生産が成り立たなくなることを懸念している。

・児童労働については、ガーナでは伝統的に水を担ぐのは女性とされている。母親が育てる子供たちはその姿をいつも見ており、母親を子供たちが手伝うのは自然なことである。この点については、欧米の団体などは、ガーナの常識を理解しないで、一方的に非難している。

・私が考えている今後のアイデアとしては、

- ① カカオボードの QCC ラボから日本に農薬検査を定期的に行かせ分析技術を見せることで、ガーナの分析技術の向上につながる。
- ② カカオ腫脹性シュートウイルス病 (CSSVD) に感染した地域の農園のリハビリのサポートとして JICA との連携、
- ③ カカオボードの CRIG が試験的にサポートできる。CMS、トレサビリティに対して、GCB は統一的なシステムを構築しようとしており、最終段階となっている。

カカオ豆の支払いには、カカオ農家にキャッシュレス決済システムを予定している。新たなシステムへの支援もお願いしたい。

- ④ カカオの一次加工工場を日系企業がガーナに進出してもらえたら、廃棄殻が 20%出る

が、農家にオーガニックな肥料として還元できるので、その点も是非考えてもらいたい。
そうならば嬉しく思うし、コラボを通じて、品質の高いカカオ豆を供給できる。

(両国からのプレゼンを踏まえて、意見交換が行われた。)

(日 本) 新しいシステムは、いつから実施される予定か。

(ガーナ) 今年の 10 月から始める計画であったが、70 地区あって、同じようなものを作る
にはコストがかかるので、来月から 3 か所くらいで始める予定である。

(ガーナ) CMS は、民間でバラバラに農家の情報などについて、統一された情報にすること
ができる。

(ガーナ) 先ほどのサステナブルの取組に追加して、井戸の他にカカオ農園のかんがい設
備が重要である。日本側では興味があるか。

(日 本) 農家から直接かんがい施設の要望は聞いていないので、あるのであれば検討す
る可能性はある。

(ガーナ) 日本側のプレゼンでは、NGO 等と日本企業が支援しているが、GCB と日本企
業が組んで支援することについて、どのように考えるか。

(日 本) 当然、共同して支援することは考えられる。NGO や投資家から、より理解が得
られるものとする。

(日 本) 日本はガーナの次にエクアドルからフレーバービーンズを輸入しているが、ガ
ーナでフレーバービーンズを作ることは可能か。

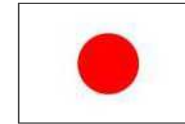
(ガーナ) ガーナでは、GCB で試験栽培をしている。フレーバービーンズの需要があり支
援があれば、可能ではないか。

(ガーナ) 後日、カカオ農園に行き、これまでの説明を実際に見ていただきたい。そして、
カカオポッドを割ってみてほしい。

(日 本) 要望について業界団体としては、QCC への支援については継続したい。また、
何ができるかについては、相談して回答したい。

(日 本) 日本チョコレート・ココア協会の三谷専務から、ワークショップでのサステイ
ナブルに係る有意義な議論が行われたことは、ガーナとの 1960 年からの長い取引
の歴史の中で培われたものであり、その信頼の上でサステイナブルな取り組みが
新たに行われることを期待するとの閉会のあいさつが行われた。

1-3 (2) 現地関係者とのワークショップ プレゼンテーション資料



MINISTRY OF
FOOD & AGRICULTURE
REPUBLIC OF GHANA



Ghana Cocoa Board
Poised to Maintain Premium Quality Cocoa

MAFF
Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries



CHOCOLATE & COCOA
ASSOCIATION
OF JAPAN

22nd November 2022 Accra, Greater Accra Region, Ghana

Workshop on Sustainable Sourcing of Ghanaian Cocoa Beans

9:00-13:00 Coconut Grove Regency Hotel in Accra, GHANA

Aiming to have a better understanding on activities and challenges towards
Sustainability/Traceability targets of the cocoa supply chain in Ghana



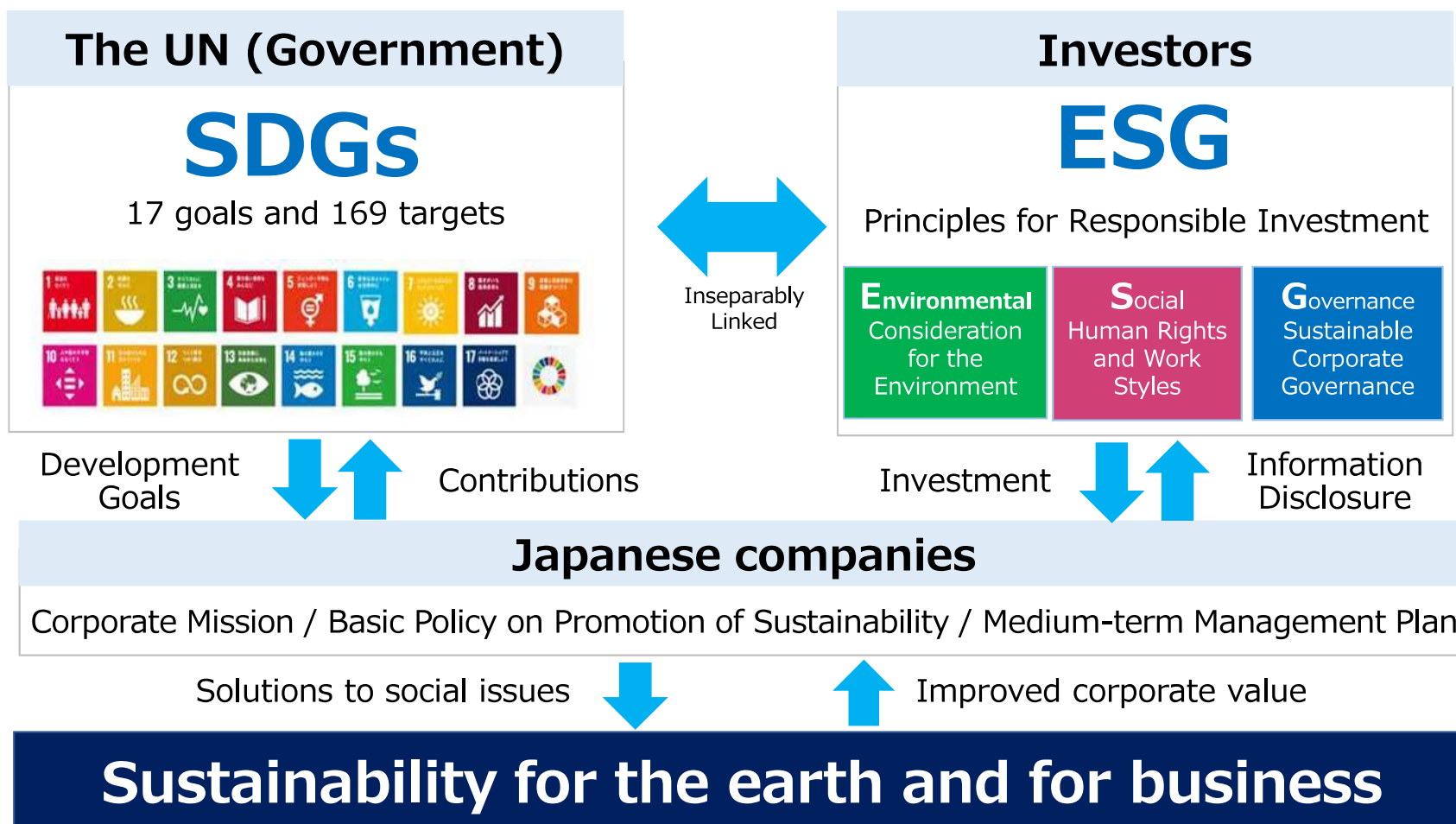
建設総合コンサルタント
中央開発株式会社

ITOCHU

Agenda

1. Sharing the sustainability needs of the Japanese companies
2. Statistics of the cocoa industry in Japan
3. Understanding the need for ensuring traceability and sustainability
4. What Japan have been doing for sustainable activities over the past years.

Relationship Between Sustainability and the SDGs and ESG



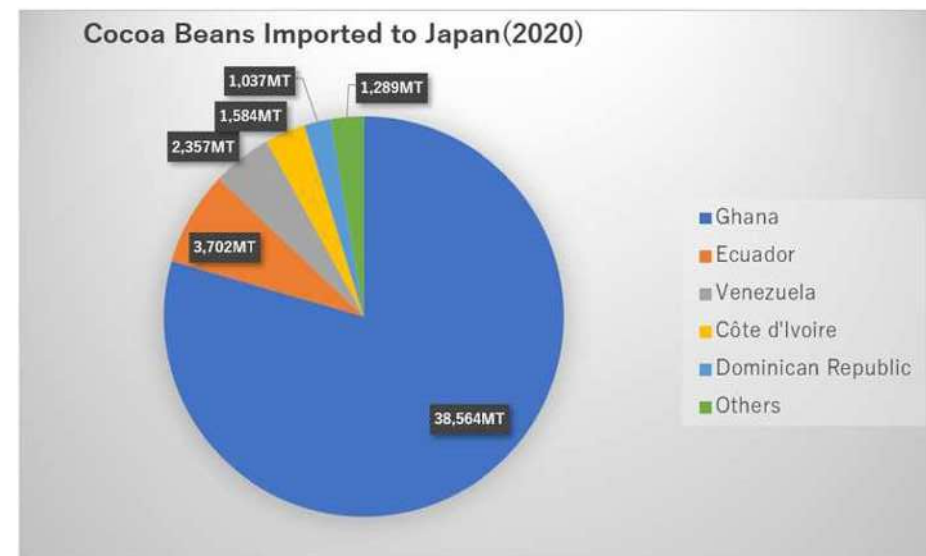
The importance of adopting SDGs and ESG

ESG Investment	✓ Global value of ESG investment: \$30.7 trillion in 2018 ⇒ <u>\$35.3 trillion in 2020 (up 15%)</u> ✓ Value of ESG investment by the GPIF (Japanese Government Pension Investment Fund) ⇒ <u>¥6.7 trillion at the end of FYE 2022 (more than tripled in five years)</u>
Environment	✓ Commitment to carbon neutrality (net zero CO2 emissions) by 2050 ⇒ <u>123 countries and one region</u> ✓ Businesses opportunities such as Renewable energy, Energy storage systems, EVs, Hydrogen and Ammonia.
Society	✓ Increasing demands for consideration of issues such as human rights, labor, and the environment in businesses supply chains and investments ✓ Increasingly rigorous traceability

SDGs and ESG are extremely important to corporate management

Statistics of cocoa bean imports to Japan

Year	2015	2016	2017	2018	2019	2020
Total Volume (MT)	40,104	63,191	54,836	58,617	53,548	48,533
Import Volume from Ghana (MT)	28,384	48,669	40,412	43,596	33,022	38,564
Imports Ratio from Ghana	70%	77%	73%	74%	61%	79%



Source: Trade Statistics of Japan

- Taking the average of the last 10 years, Japan imports cocoa beans around 48,000mt per year.
- Out of the 48,000mt, roughly 36,000mt was imported from Ghana, which makes around **75%** of the total cocoa beans imported in to Japan.
- The major reasons why so much percentage relies on Ghanaian cocoa beans is because people in Japan have been familiar with the mild and well balanced taste of Ghanaian cocoa beans over the past years and is the most preferred origination.
- Also, the trust towards the high quality measures taken in Ghana is another reason why Japan has been selecting Ghana as their major cocoa bean supplying country.

Statistics of domestic chocolate production in Japan

Domestic chocolate production volume rankings in 2019(MT)

• 1 st Place	Germany	1,158,940
• 2 nd Place	Italy	339,576
• 3 rd Place	United Kingdom	289,465
• 4 th Place	Japan	243,870
• 5 th Place	Belgium	234,185
• 6 th Place	Poland	231,915
• 7 th Place	Switzerland	170,840
• 8 th Place	France	166,530
• 9 th Place	Spain	153,555

* The United States has not released data since 2011

Source: ICA/CAOBISCO

• As you can see from the chart, Japan is the **4th biggest country** to produce chocolate products within the country amongst many other countries which shares data.

• Japan consumes most of the chocolate products made within the country domestically, therefore the amount of export of the Japanese chocolate product is very low.

MRL rejection data since 2006

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
2,4-D						1		2				1	11	3	5		
Cypermethrin								1	42	1	1					1	
Fenvalerate	3	7	1	15	7	14	5	3	1	1	3		2				
Imidacloprid				9	4	18	10	6	1	1	1						
Chlorpyrifos	36	6	7		1						1		5	1			
Pirimiphos-methyl	25	13	5	17													
Endosulfan	5	3	3	21	1												
Thiamethoxam					2	2											
Profenofos			1														
Fenitrothion				2													
Atrazine					1												
Chlorpropham						1											
Permethrin				6	8	1											
Total	69	29	17	70	24	37	15	12	44	3	6	1	18	4	5	1	0

Source: Ministry of Health, Labour and Welfare

- After the peak in year 2014, the MRL rejection cases had seen a decline, however in year 2018 there was a spike due to numerous 2,4-D detected cases.
- Since then, thanks to the support between Ghana COCOBOD and CCAJ, we have been able to keep the rejection rate at a low rate.

Sustainable Goals set by Japanese confectionary makers



Meiji

Set a goal of sourcing 100% sustainable cocoa beans by 2026.

They have been dedicated to sustainable activities through their own “Meiji Cocoa Support” program since 2006.



Lotte

Set a target for FY2023 of a 20% or more usage rate of Fair

Cacao out of total cacao beans procured, with the target of increasing this ratio to 50% or more by FY2028.

Their activities are contributing to a sustainable cacao industry, pursued under their own “Fair Cacao Project”.



Fuji Oil

Elimination of child labour by 2030, no worst forms of child labour by 2025.

One million trees planted by 2030, 500,000 trees planted by 2025.



Morinaga

Source 100% of their cocoa sustainably by 2025, partnering with the Cocoa Horizons Foundation and other sustainable cocoa programs.



Glico

By 2022, the Glico Group plans to switch all of the Africa-grown cacao beans it procures to traceable.

- Other companies are also starting to follow above trend for setting sustainable goals

Comments and requirements by Japanese confectionary makers

- **1. The necessity to build an environment and system to make “sustainable procurement of cocoa beans” possible**

⇒We would like to know the current status and your future plans on how you intend to implement a system which can secure the sustainable procurement of cocoa beans, especially elimination of possibility of Child Labour and Deforestation.

- **2. Continue increasing productivity of cocoa beans in Ghana to achieve stable supply**

⇒We would like to know what actions or plans you have in mind which will lead to the increase of the cocoa bean productivity in Ghana.

- **3. Asking continuous support on the proper usage of chemicals and chemical residue checks**

⇒We would like to ask your continuous support to train the farmers on using the proper chemicals, and also proceeding chemical residue checks before the shipment.

Examples of sustainable activities by Japan

- Establish CLMRS activities in their cocoa sourcing communities, in accordance with the guidelines set by ICI.
- Climate Smart Cocoa training
- Good Agricultural Practices training
- Distribution of cocoa nursery, shade trees
- Distribution of tricycle as National Farmer's Day prize
- Building of boreholes
- Introducing Agroforestry measures
- Being active in the NPO activities such as WCF, CFI and ICI



農家を型けふ農家（中米）
伝播したカカオの運搬

